

◆シリーズ◆ 菊池一族の遺産

問い合わせ先 菊池一族プロモーション室 ☎0968(25)7267

「菊池一族の街」④

菊池十八外城

菊池一族の時代、菊池には数多くの城が築かれ、戦に備えた都市計画がなされていました。

この頃の城は、戦国期以降の天守閣を伴う壮大な城郭とは違い、山岳や丘陵、河川などを望み、堀として利用した山城でした。本城の周りには支城を配置し、互いに連携させる広大な要塞地として機能していたのです。

菊池一族もまた、天然の要害である隈府に本城を置き、四方の要所に支城を配置していました。現在「菊池十八外城」と呼ばれている城跡はその遺跡です。

この名前が最初に出てきたのは『菊池風土記』という江戸時代の書物の中で、本来外城は市内だけでも20以上が確認されているのですが、語呂の良さからそのうちの18が選ばれました。このうちの7つを有することが町名の由来になったのが七城町です。

当時の本城は現在菊池神社が建っている城山に築かれ、ここを起点に南から西に戸崎城、古池城、菊之城、亀尾城、馬渡城、打越城、正光寺城、増永城、台城、神尾城の10城が、東から北に止林城、元居城、黄金塚城、市成城、掛幕城、鷹取城、五社尾城、葛原城の8城が配置されています。

外敵に対して正面口となるのは七城方面で、その出入り口をおさえる最も重要な役目を負っていたのが台城とされています。亀尾、古池の両城は、南方合志台地を越えてくる敵にも備え、戸崎城と止林城は直接菊池本城を守る任務も持っていたようです。本城背面の警戒、防御を受け持ち、本城を守りきれないときには退いて立てこもるための役割を担っていたと考えられるのが掛幕城、市成城をはじめとした山付きの各城です。

菊池のまちは、菊池十八外城という本城と支城のネットワークによって、外敵からの守りを固めていたのだと考えられています。

広報きくち4月号「菊池一族の遺産」の記事に誤りがありました。正しくは次のとおりです。お詫びして訂正します。

【誤】 武光の墓（西正観寺）
【正】 武光の墓（東正観寺）

わいふ一番館

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎0968(24)6630

わいふ一番館は当面の間休館します

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当面の間、わいふ一番館を休館します。ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

※再開時期は未定です



菊池観光協会

問い合わせ先 菊池観光協会 ☎0968(25)0513

菊池市ふるさと創生市民広場の利用を制限します

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当面の間、市民広場内の遊具や大屋根広場のテーブル・椅子の貸出利用を休止します。ご理解とご協力をお願いします。

開館時間 午前9時～午後6時

休館日 第4(火)(点検などで臨時的に休館する場合あり)

◆シリーズ◆ 交流の絆 ②

申し込み・問い合わせ先 市長公室 ☎0968(25)7252

菊池国際交流協会と一緒に活動しませんか

市は、韓国の金堤市、清州市、中国の泗水県と友好都市の締結をしています。菊池国際交流協会では、韓国2都市との市民交流を目的として、市民交流団の派遣や受け入れを行うなど交流を続けています。

市内も外国籍の市民が増えています。国籍を問わず、いろんな人が交流できる場をつくろうと、「インターナショナル・ファンデイ」を開催。スポーツやゲームなどでコミュニケーションをとりながら、お互いの文化や言語に触れる機会づくりをしています。



申し込みは随時受け付けています。

【年会費】2,000円

インターナショナル・ファンデイでは、さまざまな国籍の人と交流